

編集発行▶九州大学ビジネス・スクール 担当▶QBS支援室 住所▶〒819-0395 福岡市西区元岡744 電話▶092-802-5558
 メールアドレス▶qbs@econ.kyushu-u.ac.jp  facebook.com/QBS.MBA

QBSの新型コロナウイルス感染防止対策について —学生の皆さんへ—



既にご案内のとおりQBSは新型コロナウイルス感染を防止するため、全学及び部局の方針を考慮しつつ独自の対策を学事の運営において実施してまいりました。

2019年度修了式は、いわゆる3密を避けるために多くの制約を加えながらも伊都キャンパスで挙行することができましたが、2020年度入学式は感染拡大の深刻化に鑑み、日程を2週間繰り下げて4月18日とした上、オンラインで実施しました。毎年入学式と同日に実施しているガイダンスは、適宜視聴できるよう録画データで配信することにしました。また、約1ヶ月繰り下げられて開始日が5月7日とされた前期授業は、全学の方針に準拠して当面の間、全て遠隔で実施することとしました。この間の準備は、特に若手の先生達の尽力によって担われてきたことを付言しておきたいと思っております。

このメッセージを起草している5月4日現在、政府による緊急事態宣言の延長が決定され、当面の間としか想定しようのない様々な対策実施期間の先行きは依然として不透明です。全ての授業を遠隔で受講するという状況に直面して、学生の皆さんは大きな不安を抱えられていることと思います。増してご自身の仕事が感染防止対策による影響を被っている方々において、その不安はいかばかり重いものであろうかと推察しています。

そのような皆さんの不安を些かなりとも軽減する上で大学院組織にできることは、オンラインという制約の下でも教育の質を損なうことなく授業を提供するための仕組みを構築することを措いて他にありません。教室での直接対面の機会を持たないまま確実に知識を伝達しようとする試みは、個々の教員にとっても新たな挑戦となります。おそらくポスト・パンデミックの世界では、大学・大学院の教育システムも大きく様変わりすることになるでしょう。その新しい教育システムは、教員と学生の皆さんの協働作業により創造されるものです。

この難局を乗り越えるため、皆さんが感染に十分注意しながら、将来を見据えて勉学に取り組まれることを期待して止みません。

永田 晃也(産業マネジメント専攻長)

QBS大学説明会のご案内

九州大学ビジネス・スクール(QBS)では、2021年4月入学のための大学説明会/オープンキャンパスを下記の通り開催いたします。各会場では、QBSの概要説明の他、教員による「模擬講義」や「学生の声を聞く」と題して、社会人学生である修了生・在校生の仕事と学業の両立、QBSに入学することのメリット等の体験談を聞くことのできるプログラムをご準備しております。



ぜひこの機会にQBSでの学びに触れてみませんか。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※8/5開催の大学説明会(福岡)は、会場からライブ配信も実施予定です。当日、会場にお越しいただくことが難しい方は、オンラインでもご参加いただけます。詳細は決定次第、QBS公式HPにてご案内いたします。

申込方法: 下記 URL の申込フォームよりお申込み下さい。
<https://qbs.kyushu-u.ac.jp/form-sys/>



お問合せ: 九州大学ビジネス・スクール(QBS)支援室
 E-mail: qbs@econ.kyushu-u.ac.jp

■大学説明会(福岡)

日時:8月5日(水)19:00~21:05

場所:JR博多シティ10階 大会議室

模擬講義:星野 裕志 教授「国際経営環境の変化」

■大学説明会(熊本)

日時:8月24日(月)19:00~21:00

場所:くまもと県民交流館パレオ 会議室7

模擬講義:目代 武史 准教授

「ビジネス・スクールで学ぶ生産管理」

■オープンキャンパス(入試説明会:福岡)

日時:9月5日(土)14:00~16:05

場所:伊都キャンパス イースト2号館E-109

模擬講義:高田 仁 教授

「大学発の事業創造とアントレプレナーシップ」

情勢により、全日程オンラインで開催となる場合は、ホームページにてお知らせします。

九州大学ビジネス・スクール<MBA課程>
 2021年4月入学生(19期生)

募集のお知らせ ~ 一般選抜 ~

出願期間/令和2年9月28日(月)~10月6日(火)
 募集人員/45名(特別選抜 若干名含む)
 選抜方法/書類審査(第1次試験)・口頭試験ほか
 第2次試験期日/令和2年10月31日(土)・11月1日(日)

■入学試験について詳しくはホームページをご覧ください■

ホームページ:<https://qbs.kyushu-u.ac.jp/>

◎ホームページからも募集要項のダウンロードができます◎



QBSアジア説明会(オンライン)を開催



2020年3月29日(日)に海外における入試プロモーションの一環としてQBSアジア説明会をオンラインで開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、中国現地での説明会は早々に断念し、代替的な方法を探っていました。

QBS修了生の王豪さん(9期)が代表を務める「ゆめ留学」の協力を受け、動画配信アプリ(Polyv)を活用したオンライン説明会が実現しました。

当日は、QBSカリキュラムや入試制度の説明に加え、オンライン模擬講義(「ビジネススクールで学ぶトヨタ生産方式」)を開催しました。172名の受講者がライブ中継に参加し、ビデオ対話やチャットを通じて質疑応答も行いました。

新たな事業価値を創造するうえで、多様な視点や問題意識、実務経験を持つ多彩な人材をQBSに迎えることの重要性はますます高まっています。しかしその協業の在り方は、従来の方法にとらわれる必要はないのかもしれませんが、この危機をむしろ機会として、QBSの海外プロモーションにおいても新たな試みに挑戦していきたいと思えます。

目代 武史(企業戦略、生産管理)

第16期生修了式

令和2年3月21日(土)15時より九州大学大学院経済学府産業マネジメント専攻修了式が、伊都キャンパスイーストゾーンD-103講義室



にて執り行われました。41名が修了されました。

永田晃也専攻長の開会の辞に続き、岩田健治経済学府長の挨拶、糸島市長であられる月形祐二様より来賓の祝辞をいただきました(祝辞は専攻長より代読)。本年度の学位記の授与は代表1名が学府長より授与されました。成績優秀者4名、南信子賞2名の表彰が行われました。

岩崎勇教授による教員挨拶の後、宮崎通樹氏が在校生を代表し送辞、深山治氏が修了生を代表し答辞を述べました。永田専攻長の閉会の辞の後、QBSアラムナイネットワーク(QAN)の紹介が行われ、その後、写真撮影を行いました。

新型コロナウイルス感染予防対策に伴い、例年とは異なる修了式となりましたが、無事に開催することができました。

平野 琢(企業倫理、経営リスクマネジメント)

第18期生入学式



令和2年4月18日(土)13時半より九州大学大学院経済学府産業マネジメント専攻入学式が執り行われました。本年度の入学式は、新型コロナウイルス感染予防対策に伴い、オンラインでの開催となりました。本年度は47名が入学されました。

伊都キャンパスイーストゾーン内での簡易スタジオから、永田晃也専攻長が開会の辞をされ、岩田健治経済学府長の挨拶の後、一般社団法人地域企業連合会九州連携機構会長であります小早川明德様より祝辞を、国立台湾師範大学の管理学院の院長、周徳璋(Chou, De-Wai)先生より祝電をいただきました(祝辞・祝電は専攻長より代読)。山口圭三氏より在校生代表挨拶の後、教員とクラス担任の紹介を行いました。

例年とは異なる入学式ではありましたが、外出自粛の要請を受けてオンラインを通して開催できたことを嬉しく思います。

平野 琢(企業倫理、経営リスクマネジメント)

成長志向のMBA@福岡 2020 オンラインで開講

令和2年度の本講座は、新型コロナウイルスの影響を受けて、初めて完全オンラインで実施中です。今年の共通テーマは「事業価値創造の新たな切り口」ですが、これまでと比べた特徴的な点は、QBSが日頃の教育で密接に連携している九州大学芸術工学府やQREC(ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター)に所属する教員、さらにはQBSの教育にご協力頂いている民間企業の方々にも登壇頂くことで、多様な切り口から「事業価値創造」という



テーマにアプローチしていることです。過去には、本講座の受講をきっかけにQBSを受験した方も多く、社会人ビジネスパーソンの学びの入り口としてしっかりと定着していることを実感します。

高田 仁(産学連携マネジメント、ビジネスにおける競争優位性特論)

目代准教授「BCAO(事業継続推進機構)アワード2019」受賞!

2018年に出版された目代武史准教授(企業戦略、生産管理)の共著書『サプライチェーンのリスクマネジメントと組織能力—熊本地震における「ものづくり企業」の生産復旧に学ぶ—』が、(特定非営利活動法人)事業継続推進機構よりBCAOアワード2019「普及貢献賞」を受賞しました。

本書は、2016年、熊本地震におけるアイシングループ、ホンダ熊本製作所の代替生産や復旧の取組み、トヨタグループの被災サプライヤー支援、半導体産業の東京エレクトロンやHOYAなどの対応について、実態調査をまとめた研究書です。製造業の事業継続の取組を公開・紹介したものとして、普及貢献の役割が大きいと評価されました。BCP(Business Continuity Plan)における製造業のサプライチェーン停止に対するリスクマネジメントの実態を知ることができる貴重な学術的な報告・分析となっています。



QBS修了生の活躍



平山 雄太さん(10期生)

皆様、ご無沙汰しています。お元気でしょうか。私は何がどうなってこうなったのかわかりませんが、現在、世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターにおいて、スマートシティに関するプロジェクトを担当しています。

これは昨年、日本政府がG20の議長国だったことを契機に生まれたプロジェクトで、日本がイニシアティブをとる形で、21世紀の石油ともいわれる「データ」について、各国の政策に相互運用性がないことが、第四次産業革命時代の最も深刻な「ガバナンス・ギャップ」とし、これを解消するために立ち上がったプロジェクトになります。

昨年10月には、その設立会合を行い、中でも、トロント市のDeputy City Manager, Josie Socioli氏による基調講演「Building a Smart City & Connected Community」や、来年度のG20議長国であるサウジアラビア王国National Digital Transformation Unit (NDU)CEOのDr. Esam Alwagait氏による、57兆円規模に及ぶスマートシティ建設プロジェクト「NEOM」の紹介や、この活動を来年度も支援していく旨のメッセージが発表されたことは、大きなハイライトとなりました。

しかし、振り返ってほんと、将来は予測不可能ですね。私のキャリアも、きっとQBSでの学びが役に立っているのだろうと、信じるようにしています。コロナで色々大変ですが、「迷わず行けよ行けばわかるさ」の精神で、前向きに、建設的に、精進していければと思います。



大矢野 秀義さん(15期生)

所属▶コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社

修了して1年が経過し、市況の変化と同じく自身のキャリアも激動の1年を経験しています。昨年は5月より東京へ単身赴任となり、組織変革のチェンジマネジメントを推進～社内総勢で東京オリンピック開催に向け万全の準備を行ってきましたが開催延期が決定～COVID-19の影響により未曾有の危機が到来～そして現在は、経営改革本部経営戦略統括部に着任しました。本業務では、社長直轄案件の変革全体に関与し、変革をリードすることが求められ、戦略的目標の策定と戦略的優先事項の作成を通じて、長期的な株主価値の成長を達成することを使命としています。今まさにQBSで学んできたアンゾフのマトリクスやシナリオプランニング等を活用し、修学してきた学びをフル活用している状況です。インターナルな課題においても、慣例慣習の強い企業文化に対し、これまでの常識を前向きに疑い、健全なコンフリクションを喚起することの重要性を痛感しています。更にこれまでの働き方も変わり、リモートワークでいかにフェアな競争環境をつくっていけるかが重要となると考えています。このように市場環境の変化が激しい状況下においては、財務諸表には見えない、経営チーム・経営資源・組織も立派な競争優位性の1つであると考え、常に知識をアップデートし、会社・社会に貢献していきたいと考えています。



令和1年度 福北交流懇談会



2020年2月21日(金)、福北交流会が福岡商工会議所で行われました。福北交流会は、毎年2月に福岡市の経済界の方々、北九州市の経済界の方々、九州大学ビジネス・スクール(QBS)の教授・生徒、北九州市立大学ビジネススクール(K2BS)の教授・生徒の産・官・学の交流を図る会です。今年は総勢約60名が参加し、会場が参加者で埋め尽くされました。

今年の福北交流会では、まず初めに、2つのビジネススクールの合同チームによる「QBS・K2BS合同チームによるビジネスプランコンテスト活動報告」というテーマで、QBSの東久保氏と武田氏、K2BSの那須氏が発表いたしました。この合同チームは今年度のQBSのビジネスコンテストで優勝したチームです。次に、QBSの岩本氏が自身の転職経験を元にプロジェクト論文として研究した「日本における業務システムの導入に影響を与える要素の考察」の発表を行いました。それぞれの発表に対して、経済界の方々から鋭いながらも、温かみやユーモアのあるコメントをいただきました。会の最後に、懇親会を行いました。各々、名刺交換や意見交換等を行い、意見や情報を交換することができ、貴重な経験となりました。

伊達 幸乃(17期生)



QAN便り



2019年4月1日にQAN(QBSアラムナイネットワーク)が任意団体から一般社団法人化して1年が過ぎました。2019年度は活動方針の「Re-born」に従い、代議員の選出、戦略的総務・会計、バナー広告制度の確立、Qloth(在校生・修了生を繋ぐデータベースシステム)運用、東京支部、事務局の運営等々の地盤固めを行ってまいりました。

しかしながら、昨今の新型コロナウイルス感染症による影響により、当然ながらQANを取り巻く状況も一変しました。毎月行われる理事会の開催はオンライン対応となり、事務局も在宅勤務を継続しています。人と人との接触が難しくなるという劇的な環境の変化に対応すべく、QANでも6月27日(土)に行われる一社化後初の代議員総会をハイブリッド型バーチャル総会にて開催す

ることいたしました。またこのような状況下だからこそということで、YouTubeに「QANちゃんねる」を開設し、QANの価値向上を図るべくコンテンツを増やしていく予定です。最後に、2020年度のQANは「Connect」(仮)を柱に、今の基本事業を継続・形にして、次に引継いでいくことを考えています。コロナ禍の中ではありますが、次に繋ぐべく着実に事業を遂行して参ります。
 高橋 久子(QAN事務局)

QBS教員の推薦書籍

▶『世界標準の経営理論』

入山章栄 著、ダイヤモンド社、2019年12月発行、2,900円(税別)



出版以来評判の本書については敢えて推薦する必要はないのかもしれませんが、気鋭の研究者にして早大B.S.教員の著者が、在米期間中にHBR誌(日本版)に連載した原稿の書籍版です。現代の世界標準と位置付ける経営理論を数々採り上げ、それらを「基盤」となっている「経済学」「心理学」「社会学」の3ディシプリンにより体系的に構成立てつつ、ブルーオーシャン戦略的「引き算」によって、経営学を学ぶビジネスマン向けの読みやすい解説書となっています。800頁という量に怯まず手に取れば、必ずや経営学の知の空間を楽しむ旅に誘われるでしょう。

平松 拓(ファイナンシャル・マネジメント、マネジメント・コントロール)

QBS教員の著書紹介

▶『上杉鷹山とイノベーション経営』

同友館、2020年5月15日発行、1,900円(税別)



本書は、江戸時代中期の大名であり領地返上寸前の米沢藩の再生へのきっかけを作った、名君、上杉鷹山の政策や哲学を企業の実務家や、アカデミアの研究者らが、各々の視座から読み解き、その現代的な意義について考察した一冊です。本書は、前半に上杉鷹山の生立ちから鷹山の政策や、その思想的背景について解説し、後半において鷹山の政策や思想を、現代企業の具体的な経営活動(例えば、顧客満足、危機管理、組織変革など)に引きつけて、その意義を考察しています。その内容を見ると、約250年も前に上杉鷹山の示した思想が、現代ビジネスに求められる様々な課題に対して新しい示唆を与えることが見えてきます。

平野 琢(企業倫理、経営リスクマネジメント)

在校生紹介



渡邊 由佳さん(17期生)

私は12年間の専業主婦を経てQBSへ入学しました。専業主婦の再就職と言えば、パート勤務が最もイメージされる選択肢ですが、私は12年間の職務経歴との連続性を持った社会復帰をしたいと考えました。

私の職務経歴は業種や役職は違っても一貫してセールス&マーケティングそしてアジアに関するものでした。しかし、これらについて系統立てて学んだことはありませんでした。そこで、職務経歴を補強し社会復帰を目指すリカレント教育としてMBAを学びたいと考えQBSに入学しました。

この一年間の学びは多角的で立体的でダイナミックなものでした。新しく得た知識と考え方で自らの経験や知識を再構築し、より深い理解と高い視座を得ることが出来ました。また、学友という財産も得ることができました。

少数派とはいえ、専業主婦世帯もまだ30%強存在しています。同じような立場の女性たちにもっとリカレント教育が広まれば良いなと思っています。



宮崎 通樹さん(17期生)

所属▶福岡商工会議所

私がQBSに入学した理由は、売上や利益といった指標で成果を測れない経済団体において、成長するための組織や人の評価方法について研究するためでした。このテーマに関しては、授業から得た知識、クラスメートとの議論を行うことでのアイデア、卒業生や教員の方々からのアドバイスで道筋が見えてきました。現在の関心事は研究者と起業家が交流する機会を設け、大学が所有する技術や特許を商用化するモデルの構築についてです。

この1年間、QBSでの学びとは別に学生会の活動に参加すること貴重な経験をすることができました。外部環境の変化で九大祭への出店やMBA成長戦略フォーラムは実施できませんでしたが、様々なバックグラウンドを持つ同期と何度も打ち合わせを行い、試行錯誤しながら準備を行うことで新たな繋がりを得ることが出来ました。今後はWith/Afterコロナという誰もが体験したことがない世界において、リーダーシップを取れるMBAホルダーになれるように学びと挑戦を続けていきたいと思っています。